

令和2年度（追加募集）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・社会人特別選抜）

入学試験問題（小論文）

注 意

- 1 試験時間は60分。
- 2 問題紙は4枚（表紙を除く）、解答紙は2枚。問1、問2の解答はそれぞれ別の用紙に記入すること

R2追加前期社会人(小論文)1

【設問】

次ページ以降の図は内閣府による『我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（平成 30 年度）』の結果の一部* である (<https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/ishiki/h30/pdf/s1.pdf>)。この調査は、2018 年の 11 月～12 月にかけて、日本、韓国、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、スウェーデンの計 7 か国で行われ、調査対象者は各国とも 13 歳から 29 歳までの男女であった。以下では日本、韓国、アメリカの 3 か国の結果だけを示している。これらの図を見て次の問いに答えなさい。

問 1 図から読みとれる、日本の若者が持つ学校に対する考え方を述べ、そのような結果となった要因等について考察しなさい。

問 2 上記を踏まえつつ、日本の学校が一層有意義に感じられるための方策について、あなたの考えを述べなさい。

* 図 1～図 10 は次にあげる (a)～(i)の観点から、学校に通う意義について評定させたものである。図 1 には日本の若者についての結果を、図 2～図 10 は 3 か国の比較を示している。具体的な質問は、以下のとおりである。

「あなたにとっての学校に通うことの意義についてうかがいます。現在通っている学校について(卒業者に対しては「最後に通った学校について」)、以下の中からあてはまると思われるものをそれぞれ 1 つずつ選んでください。」

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 意義があった／ある | 2. どちらかといえば意義があった／ある |
| 3. どちらかといえば意義がなかった／ない | 4. 意義がなかった／ない |

- (a) 一般的・基礎的知識を身に付ける (図 2)
- (b) 専門的な知識を身に付ける (図 3)
- (c) 仕事に必要な技術や能力を身に付ける (図 4)
- (d) 学歴や資格を得る (図 5)
- (e) 自分の才能を伸ばす (図 6)
- (f) 友達との友情をはぐくむ (図 7)
- (g) 先生の人柄や生き方から学ぶ (図 8)
- (h) 自由な時間を楽しむ (図 9)
- (i) 課外活動に取り組む (図 10)

また、図 11 における質問は、以下のとおりである。

「あなたは、学校生活に満足していますか、それとも不満ですか。現在、学校へ行っていない方は、学校へ行っていた時のことをお答えください。」

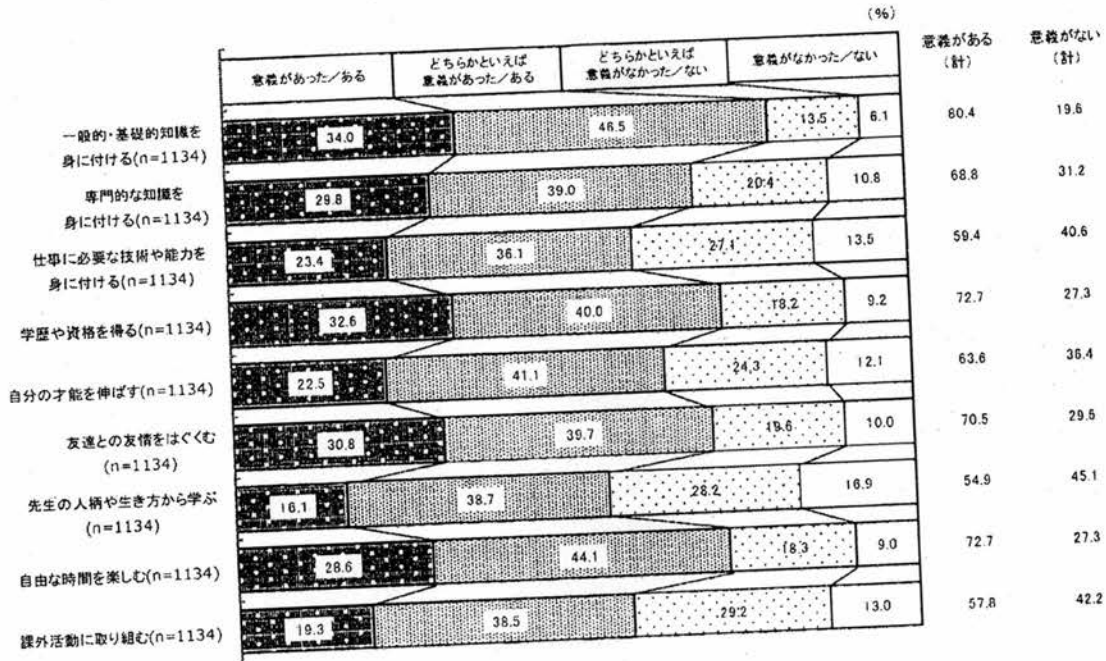


図1 日本の若者が考える学校に通う意義

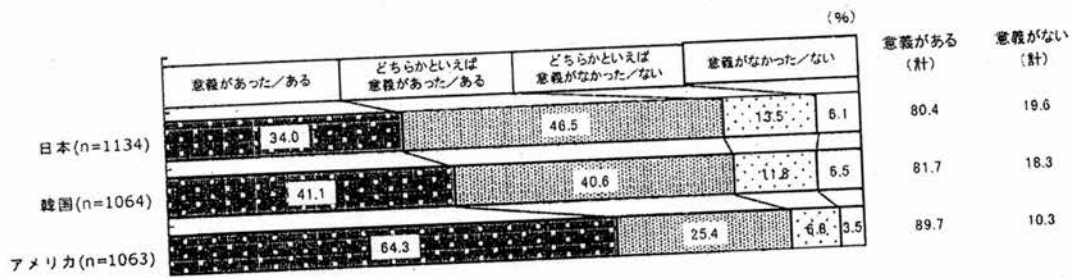


図2 学校に通う意義「(a) 一般的・基礎的知識を身に付ける」の国際比較

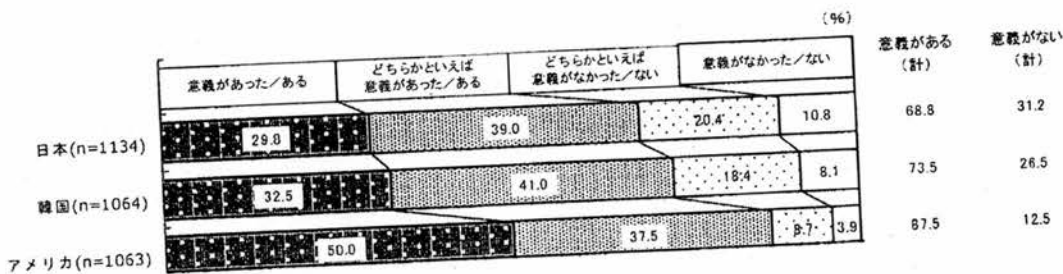


図3 学校に通う意義「(b) 専門的な知識を身に付ける」の国際比較

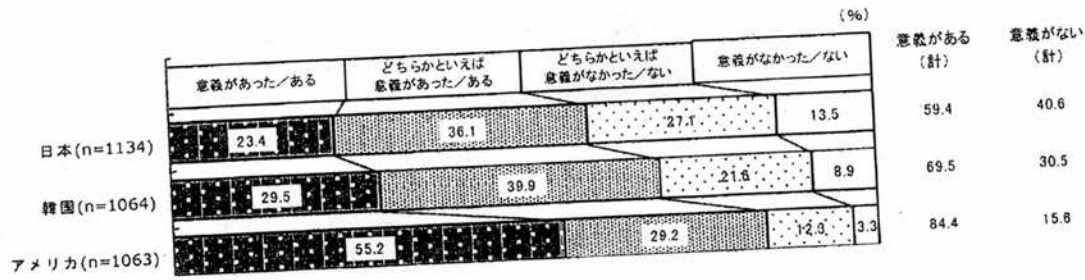


図4 学校に通う意義「(c) 仕事に必要な技術や能力を身に付ける」の国際比較

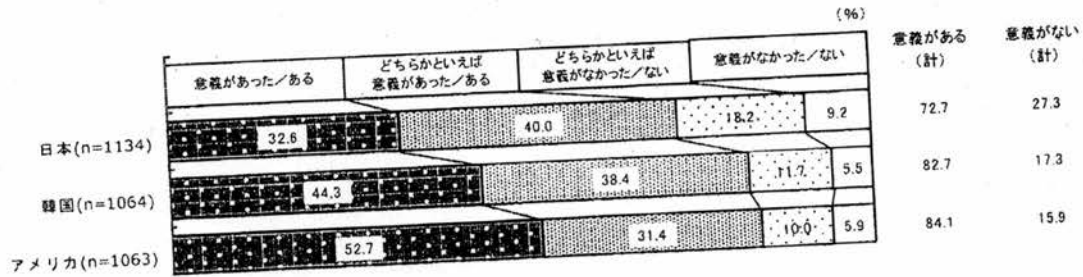


図5 学校に通う意義「(d) 学歴や資格を得る」の国際比較

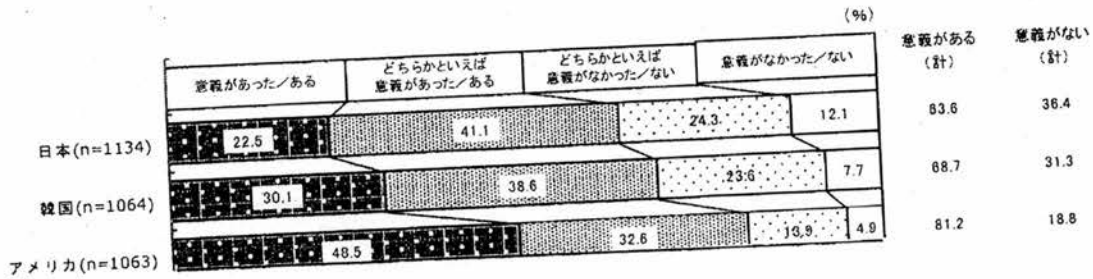


図6 学校に通う意義「(e) 自分の才能を伸ばす」の国際比較

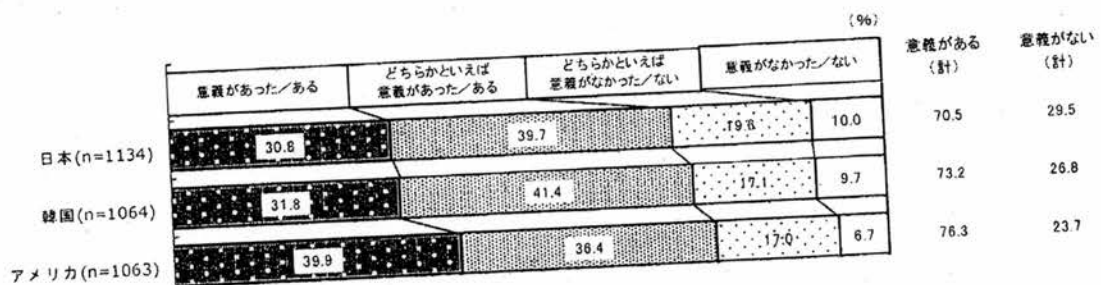


図7 学校に通う意義「(f) 友達との友情をはぐくむ」の国際比較

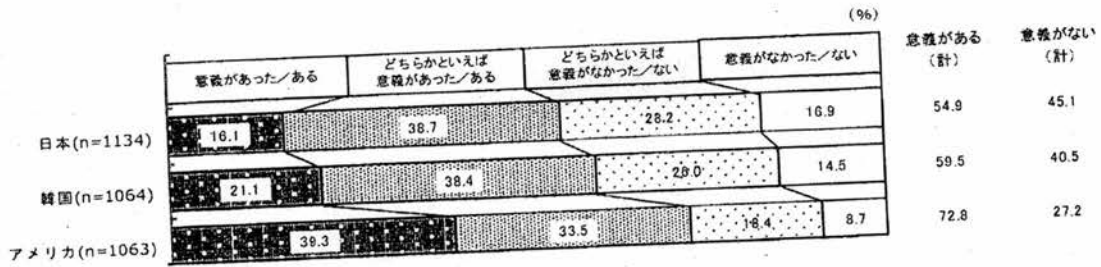


図8 学校に通う意義「(g) 先生の人柄や生き方から学ぶ」の国際比較

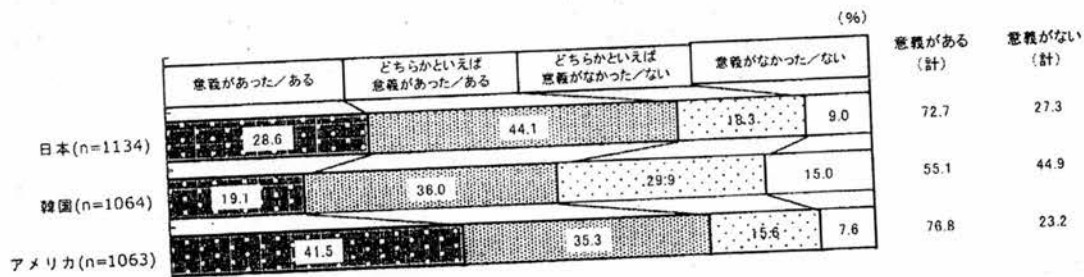


図9 学校に通う意義「(h) 自由な時間を楽しむ」の国際比較

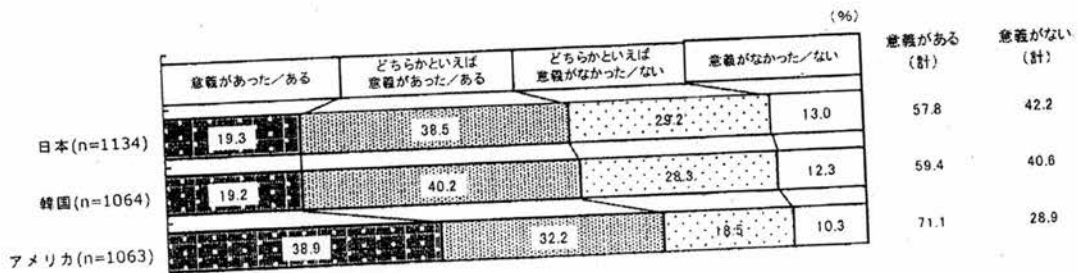


図10 学校に通う意義「(i) 課外活動に取り組む」の国際比較

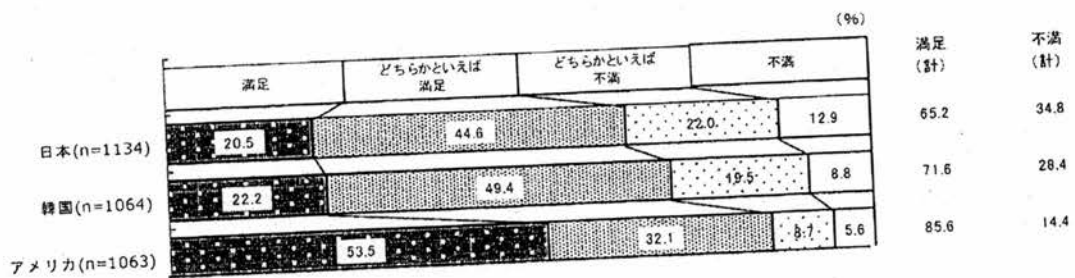


図11 学校生活満足度の国際比較